

東京・葛西城址 かさいじょう

- 1 所在地 東京都葛飾区青戸七丁目
- 2 調査期間 一 一九八六年(昭61)五月～一九八七年四月、
二 一九八七年五月～一〇月

3 発掘機関 葛西城址調査会

4 調査担当者 谷口 榮

5 遺跡の種類 城館跡

6 遺跡の年代 中世～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(東京東北部)

葛西城址は、中川右岸の自然堤防上に立地する中世の城館跡である。近世には徳川將軍家の

御殿(青戸御殿)として使用されている。

調査は下水道の敷設に伴って実施された。葛西城址の中心を南北に貫く環状七号線を挟んで、東側が下水道東地区、西側が下水道西地区である。トレンチ状の

調査ではあったが、堀や溝などの葛西城関連の遺構が確認され、城の縄張りを把握する上で重要なデータが得られた。

下水道西地区では、U区からW区にかけての五号遺構から木簡一点が出土した。五号遺構は、主郭北側の郭の西側に位置する堀である。遺構の時期はおよそ一六世紀と思われる。

下水道東地区では、M区二八号遺構から将棋の駒(二(1)、I区三二号遺構から卒塔婆(二(2))と板材(二(3))が出土した。葛西城の主郭は周囲が堀で囲まれており、M区二八号遺構はその東側に位置する堀である。この堀は一六世紀に整備され、一七世紀の青戸御殿の時期まで機能していたとみられる。I区三二号遺構は、主郭東北側に所在する幅四m程度と推測される溝である。出土遺物は、中世と近世のものが混在しており、一六世紀の葛西城の時代に掘られたものが、一七世紀以降も溝として使われていた可能性がある。

8 木簡の積文・内容

一 下水道西地区

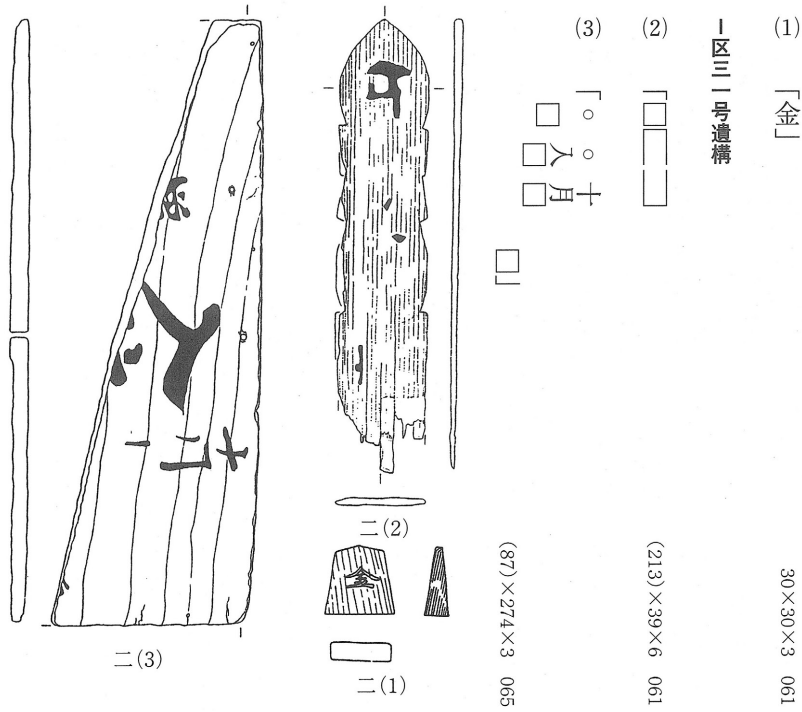
(1) [▽□大□]

83×26×7 032

三文字が確認できるが、判読できるのは二文字目のみである。



一(1)



二 下水道東地区

M区二八号遺構

(1) 「金」

30×30×3 061

一区三一号遺構

(2)

(213)×39×6 061

(3)

「。入。月」

(87)×274×3 065

(1)は将棋の駒、(2)は卒塔婆である。(3)は用途不明の板材で、釘孔を有する。

9 関係文献

葛飾区遺跡調査会『葛西城Ⅻ(第二分冊)』(葛飾区遺跡調査会調査報告五、一九九二年)

(永越信吾(葛飾区教育委員会))